



さがまた

No.106
2026.2





さかまたで振り返る鴨川シーワールドの周年催事

鴨川シーワールドは1970年10月1日に開業し、今年で55年をむかえることができました。今回は過去の各周年でおこなわれた催し物を機関誌「さかまた」のバックナンバーからふりかえり紹介します。

3周年 No.3:1973年9月、No.4:1973年12月掲載

最初の周年の催しは、1973年に開業3周年を記念して開催されました。「イルカと三つの夢」と題し、未来の海洋開発構想とそこで活躍するイルカの姿を紹介した特別展示のほかに、10月中に来館したお子様5,000名へ海獣バッジのプレゼント、さらに「3」にちなんで10月中の休日にお土産三点セットの3割引販売などもおこなわれました。また、11月4日にもアオウミガメ4個体の放流をおこなっています。1カ月から3年間飼育していた個体に回遊経路調査の標識を付けて放流しましたが、当日は500名ものお客様が集まる中、お別れと無事を祈る儀式のあと海に帰した記録が残っています。



▲ 3周年記念：アオウミガメの放流

7周年 No.11:1977年12月掲載

2度目の周年イベントは開業から7年目、来館者500万人を達成した1977年に記念セレモニーとしておこなわれました。10月10日午前11時15分に入館された500万人目のお客様（ご家族4名）を1.5mの巨大なす玉とクラッカーでお迎えし、一年間の鴨川シーワールドの名誉館長の称号、鴨川シーワールドホテルのご家族一泊招待と記念品が贈呈されました。



▲ 7周年記念：500万人入館記念セレモニー

10周年 No.16:1981年2月掲載

区切りの開業10年目におこなったのは「児童動物画コンクール」でした。鴨川市内の小学生、幼稚園児より動物絵画を募集し、寄せられた405点の力作から、厳正な審査の結果、特別賞3名、金賞6名、銀賞12名、銅賞18名が選ばれました。



▲ 10周年：児童動物画コンクール表彰の様子（場所は現在のクラゲライブ）

15周年 No.26:1985年12月掲載

開業15周年の1985年には、海のすばらしさを直接肌で感じ、水族館で楽しい一日を過ごしていただくために、①普段見ることのできない水族館の裏方（当時は現エコアクアロームの裏方）見学とペルーガとのふれあいを体験する「水族館まるごとウォッチング」、②「パノリウム」（現エコアクアローム）で魚類への給餌体験ができる「魚とのコミュ

ニケーションタイム」、③ペルーガとのふれあい体験をする「ペルーガの世界をのぞこう」、④バンドウイルカとのふれあい体験をする「イルカは友達」、そして⑤現在のトロピカルアイランドの場所にあったアシカショースタンドでセイウチと間近にふれあう「セイウチに触ろう!ムックにタッチ」の5つの催し物がおこなわれました。これらは現在のディスカバリーガイダンスとなって、お客様が動物とふれあう機会を提供しています。そのほかに「海の動物のイラスト大会」や「小学校絵画コンクール」が開催されました。



▲ 15周年に企画された各種ふれあいプログラム

20周年 No.36:1990年12月掲載

1990年の20周年開業の催しは、夏の催事としておこなった「20周年記念クロスワードクイズ」、「オリジナルうちわ」のプレゼントに続き、開業記念日である10月1日には開館と同時に20発の花火を打ち上げ、すべてのお客様にジュースのサービスやお子様へのバッチのプレゼントと、当館のキャラクター「オルタン」のグッズが当たる抽選会が開催されました。

30周年 No.56:2000年12月掲載

開業30周年目にあたる2000年7月22日には「トロピカルアイランド」がオープンしました。「トロピカルアイランド」オープン記念セレモニーを開催し、展示の参考としたキリバス共和国の環境大臣にテープカットをいただいたほか、漁船による汽笛、地元小学校のトランペット鼓隊の演奏、花火の打ち上げなどで盛大にオープンを祝いました。



▲ 30周年：トロピカルアイランドオープン



▲ 30周年：トロピカルアイランドオープン

40周年 No.75:2010年7月、No.76:2010年12月掲載

開業40年目は周年を目前にした2010年3月22日午前9時30分に3,500万人目のお客様をお迎えして始まりました。この年には40周年記念イベントとして、「シャチのトレーニングスクール」を開催し、抽選で選ばれた5名の女性のお客様にウェットスーツに着替えてシャチへのサイン出しや水しぶきのプレゼント体験など思い出深い経験を提供了。またディスカバリーガイダンスが見直され、トロピカルアイランド「無限の海」のプールサイドに長靴をはいて給餌をおこなう「トロピカルアイランド・コミュニケーションタイム」、イルカトレーナーを体験できる「イルカの海・コミュニケーションタイム」が加わり、それまで「水族館まるごとウォッチング」に組み込まれていた「ペルーガにタッチ」が単独のプログラムとなりました。



▲ 40周年：トロピカルアイランド・コミュニケーションタイム

50周年 No.95:2020年7月、No.96:2021年2月、No.97:2021年7月、No.98:2021年12月掲載

2019年12月、開業50周年目前に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行による休館や活動の縮小により、周年の催し物どころか水族館の運営継続が精一杯の状況でしたが、そんな中でも50周年を盛り上げるための新テーマソングの「Wonderful World」をDream Amiさんに手がけてもらいました。老朽化したエントランスのシャチのモニュメントの更新もおこない新しい鴨川シーワールドの顔になりました。



▲ 50周年：Dream Amiさんの「Wonderful World」

55周年

2024年の神戸須磨シーワールド開業を終えてむかえた55周年のために「動物たちがいつまでも健康に」の思いを込めたシャチのロゴを準備しました。キャンペーンの新テーマソング「KIRAKIRA DAYS」は50周年に続きDream Amiさんの作詞で、正面ゲートやパフォーマンスのBGMとしても流され周年を盛り上げてくれています。館内には記念バナーのほか、シャチを描く漫画家のコラボイラストボードが掲示され、売店では周年記念の御朱印と、南房総の方言から名付けた並外れて大きいシャチのぬいぐるみ「てっぱつシャチ」の販売、レストランでは特別メニューの提供などが年度末まで続きます。

おわりに

過去の周年の催しを振り返りましたが、催し物以外にも2004年（34周年目）に始まった「鴨川市二十歳の集い（旧名称：鴨川市成人式）」の会場提供、2015年（45周年目）に新鴨川市市制施行10周年を記念して始めた「鴨川市民DAY」、2021年（51周年目）におこなったDolphin Dream Club（ドルフィンドリームクラブ、旧名称：シーワールド友の会）の皆様との東条海岸の清掃活動「GOMI ZERO運動」のほか、地元警察による交通安全や自治体による子育て支援の各キャンペーンへの協力など、様々な地域貢献活動も続けていることを改めて認識することができました。これからも鴨川シーワールドは「生命（いのち）の輝きと、ふれあえる海」をお届けしながら、皆様から支持される水族館であり続けることを目指したいと思います。

開発展示課 齋藤 純康
Sumiyasu Saito

●No.89（2017.7）以降のバックナンバーは公式HPでもご覧いただけます



▲ シャチと知床連山



▲ 海藻で遊ぶ個体



▲ 白いシャチ(左)



▲ 水しぶきをあげて泳ぐイシイルカ



▲ 潜行するマッコウクジラの尾ビレ

知床羅臼シャチ調査報告2025

2025年6月2日から26日にかけて根室海峡に現れるシャチの個体識別調査に参加しました。北海道知床半島に面した根室海峡には4月から8月にかけてシャチが来遊することが知られています。鴨川シーワールドでは2017年から2019年にかけて大学の研究チームが実施している学術調査への乗船、2021年から2023年にかけては「シャチトレーナーと行く知床ツアー」を通じて現地の様子を記録してきました。今回、初めて当館が主体となり本格的な調査を実施することとなり、飼育部門の職員から調査メンバー6名が3組に分かれて、約1カ月間の長期的な調査をおこないました。野生のシャチの個体識別は、背ビレとそのすぐ後ろにあるサドルパッチと呼ばれる模様を撮影した写真を用いて海外で始まり、血縁関係だけでなく海域の利用状況や来遊時期などの生態解明に役立てられてきまし

た。日本国内でも釧路沖や根室海峡で調査がおこなわれてきました。調査の1日は朝早くから始まります。午前7時の出航までに支度を整え機材を用意して港に集合、出航すると午後3時30分の帰港までひたすら探索を続けます。船上では航路や天候・水温を記録し、シャチを見つけるとGPSデータを記録しながら個体識別用の写真撮影や行動観察とその記録に奔走します。帰港してからも船上で記録した調査用紙に間違いがないか確認し、時間があれば膨大な枚数の撮影写真の中から個体識別に適したものを選別するなど作業は山ほどあって大忙しです。調査期間中はハードな日々が続き、とても初夏の知床を楽しむどころではありませんでした。それでも、シャチを含めた様々な生物と遭遇できたのは素晴らしい経験でした。天候不良で出航できない日もありましたが、20日間の出航に対し17日

間でシャチを発見することができました。多い日には1日90頭と遭遇し、その際、頭を水面上に出して周囲を見渡す「スパイホップ」や海藻を体に巻き付けて遊ぶなど多岐に渡る行動を観察することもできました。また遠方からではありませんが「白いシャチ」の観察にも成功しました。シャチ以外にも、水しぶきをあげながら高速で泳ぐイシイルカや、マッコウクジラが悠々と尾ビレを高く上げて潜行する様子、さらに2019年8月に新種として認められたクロツチクジラなどを観察することができました。現在でも作業は続いていて200を超える個体を識別することができそうです。個体が識別されれば各個体間の関係や行動の様子などから、根室海峡に来遊するシャチの生態解明が進むことが期待されます。

海獣展示三課 村林 亮輔
Ryosuke Murabayashi



▲ 展示中の成虫



▲ 自作の産卵床（園芸用のスポンジ）に産み付けられた卵



▲ カップに1個体ごと分けられた1令幼虫



▲ ふ化の翌日にアカムシを摂餌している1令幼虫



▲ 5回目の脱皮（羽化）

水族館生まれのミズカマキリ

ミズカマキリは日本全国の水田や池沼などに生息するカメムシの仲間です。春から夏の産卵期に水辺の植物の葉や、湿った陸地に卵を産み付けます。約2週間で卵から幼虫がふ化し、5回の脱皮を繰り返して成虫になります。今回、春先に採集した個体を雌雄判別してペアをつくり飼育下での繁殖を目指しました。繁殖用の水そうに湿らせた園芸用のスポンジで陸地を設けて産卵床としてペアを飼育したところ、4月18日に初めての産卵、5月14日に2回目の産卵を確認しました。卵は水没すると呼吸ができなくなってしまったため、水位を調整できる別の水そうへ移動しました。初回の卵は20日後の5月8日、2回目の卵は18日後の6月1日にそれぞれ10個体のふ化を確認しました。ふ化した幼虫は体長7mmほどで、共食いを防ぐためプラスチックのカップに1個体ずつ分

けて飼育を開始しました。カップの中には溺れないように足場となる水草を入れて毎日水替えをおこないました。ふ化をした翌日から水面にうつる物陰や飼育係の動きに反応してエサを捕まえるような行動が見られたため、ピンセットで冷凍のアカムシを与えたとこ小さな前肢で捕まえて食べました。幼虫はエサを取り逃したり、驚いて泳いだりするとしばらくエサを食べなくなるため、動きに注意しながら1日に1~3回エサを与えました。5月16日に先に生まれた10個体の1回目の脱皮を確認した後は、成長に合わせて水そうの大きさや照明の点灯時間などを調整しました。また、エサも成長にあわせて冷凍のアカムシだけでなく、小魚や昆虫など様々な生き物に変えていきました。初めのうちはピンセットからの摂餌のみでしたが、徐々に泳いでいる小魚など

も捕まえて食べられるようになりました。羽化は通常、夜間に起こりますが1~4回目までの脱皮は日中に確認することもできました。ふ化後54日目の7月1日の朝、最初にふ化した幼虫1個体が5回目の脱皮（羽化）をして成虫になった姿を確認しました。羽化する姿を記録に残そうと夜間も1分間隔で自動撮影したところ、明け方の6時ころから約40分かけて羽化する姿を収めることができました。羽化後はしっかりと羽が固まり安定するまで裏方で飼育し、最終的にオス2個体、メス3個体の5個体が成虫となり、エコアクアローム「湧水」で展示できました。採集してきた個体では冬前に寿命を迎えてしまうことが多かったのですが、繁殖できたことで春から夏の産卵期まで飼育展示をすることができそうです。

魚類展示課 東 杏菜
Anna Higashi

ウミガメの保護活動2025

今年のウミガメ保護活動のまとめを報告します。海岸での産卵行動調査は5月16日から9月30日までおこないましたが、鴨川市内の海岸では産卵が確認できませんでした。産卵行動調査のほかに対応している、漁港に迷入したり砂浜に漂着したりした生体の保護と調査活動では、合計3個体のアオウミガメを保護しました。衰弱などにより上手く泳げないことが多いため、保護後は状態の回復に努め、1個体を放流しました。また10月29日には、横芝光町の九十九里海岸で、ふ化後に砂の中に取り残されていたアカウミガメの幼体を保護しました。

魚類展示課 吉留 健
Takeshi Yoshidome



水族館生まれのカミナリイカ

カミナリイカは体（甲）に眼のような模様（眼状紋）があることから「紋甲（もんごう）いか」という名でも知られる、体長50cmにもなる大型のコウイカの仲間です。2025年1月に搬入した親イカが3月に産卵し、5月に子イカが生まれました。ふ化時の体長は1cmほどでしたが、半年ほど経った11月には大きいもので20cmほどに成長し、背中模様も目立つようになりました。普段は砂の上でじっとしていますが、エサの時間には活発に泳ぐ姿が見られます。産卵期をむかえる来年の春には、飼育下での累代繁殖を目指したいです。

魚類展示課 五十嵐 麗名
Reina Igarashi



55周年記念企画「新フォトスポット」登場!!

55周年記念企画として3か所のフォトスポットを新設しました。オーシャンスタジアム横の通路とホテルロビーには、漫画家、まつおるか先生と遊維先生によるコラボ描きおろしイラストボードを設置。横幅4メートルに及ぶ大迫力の力作が55周年を鮮やかに彩っています。また、水中写真家、戸村裕行氏の作品も設置しました。「サマースプラッシュ」で濡れた衣服が活かされ、夏の思い出を撮影できると多くのお客様に利用されました。これらのフォトスポット企画は鴨川シーワールドの55周年をより一層盛り上げてくれています。

マーケティング課 中澤 寿雅
Toshimasa Nakazawa



暑さも楽しめ! サマースプラッシュ!

鴨川シーワールドの夏といえば、暑さを吹き飛ばす水しぶきでお馴染みのサマースプラッシュ! 今年の夏も記録破りの暑い日が続いたため、終了日を開業記念日である10月1日まで延長しました。ルーナの成長で昨年よりパワーアップしたテールバーストを、目を輝かせて期待するたくさんのお客様に、冷たいプールの水と共に感動をお届けしたオーシャンスタジアムには、連日歓声と笑顔があふれていました。気温の低下する冬の季節は、ジャンプ以外の水かけ種目はお休みですが、暑さが増す一方の夏に備えてトレーニングは怠りません。

海獣展示課 軽部 芽未
Meimi Karube



▲ エトピリカ

私のイチオシは「エトピリカ」です。

エトピリカは繁殖期前後に羽が生えかわるため夏と冬では姿が異なり、夏羽に見られる頭部の飾り羽とオレンジ色のクチバシが美しい水鳥です。2008年に私が入社した当時、エトピリカはラッコと同居飼育されていました。本来は水中を羽ばたくように泳ぐ姿が魅力の一つですが、いたずら好きなラッコが遊びで水中に沈めようとするため、陸地の岩や流木の影に隠れてひっそりと暮らす「ラッコのおまけ」のような存在でした。しかし、その年に当館ではじめてエトピリカの繁殖に成功し、体重50gで手のひらサイズの小さなヒナを世話する機会を得た新人の私は、小さくか弱いヒナが必死に餌を食べてくれる姿を見て感動した事を覚えています。2015年からは飼育施設が「ピリカの森」としてリニューアルされ、エトピリカがプールの主役になりました。心配なく流木や岩の上から羽ばたいてプールに飛び込み、水中を自由に泳ぎ回ったり、ガラス面に横一列に並んで浮い

たりとその魅力を存分に発揮しています。

一方で飼育個体の高齢化と性比の偏りから繁殖が停滞したため、アクアワールド茨城県大洗水族館から繁殖を目的に、新たに数羽を借り受け（ブリーディングローン）、当館の個体との間で繁殖を推進しました。期待通りに次々とつがい形成され産卵数も増えました。繁殖期に巣の奪い合いが起こらないように巣箱を多く設置することや、ヒナに与える餌料種の検討、親鳥の給餌方法などの見直しをおこない繁殖成績は徐々に改善されてきました。しかし、発生が途中で止まってしまうこと（中止卵）や、ふ化直後にヒナが急死してしまう例もあり、全卵のふ化とヒナの巣立ちを目標に試行錯誤も続けています。自分自身が初めてヒナを見た時の感動を忘れず、エトピリカの魅力をより多くのお客様に味わっていただけるように今後も飼育に力を入れていきたいと思えます。

海獣展示課 岩本 晃典
Akinori Iwamoto

飼育員の イチオシ

エトピリカの 魅力



▲ ピリカの森（2015年リニューアルオープン）



▲ 7日齢のヒナ（体重約120g）

Kamogawa Sea World NEWS

鴨川シーワールドニュース
2025/5/1 ▶ 2025/10/31

動物友の会月例会

テーマ: 鴨川シーワールドの仲間たち

実施日	タイトル	出席者数
2025年度 5/24、31	鴨川シーワールドの保全活動・ 保護活動について (シャープゲンゴロウモドキ他)	22名
6/21、28	アシカ・アザラシの仲間(鰭脚類)	60名
7/19、26	鴨川シーワールドの 健康管理とトレーニング	60名
8/23、30	作ってみよう!鴨川シーワールドの なかまたち	57名
9/20、27	カメの仲間(は虫類)	46名
10/18、25	ペンギン・ペリカン・ エトヒリカ(鳥類)	52名

動物友の会9月例会
「カメの仲間(は虫類)」



イベント

館内催事

4/1 ~	55th「Aniversary Year」
2026/3/31	・55周年特別パネル展「さかまた& 鴨川シーワールドストーリー」(7/1 ~ 12月中旬) ・アーティストコラボによる新フォトスポット (7/12 ~ 2026年3月末) ・55周年記念 メッセージボード(10/1 ~ 10/31)

55周年
特別パネル展
「さかまた&
鴨川シーワールド
ストーリー」



館内催事

6/15	千葉県民の日 ・千葉県内中学生以下無料入館(1,228名入館) ・千葉県の魚「マダイ」の放流(天候不良の為中止)
7/1 ~ 8/31	サマーイベント ・シャチのサマースブラッシュ ・夜の水族館探検ナイトアドベンチャー(計39回、参加者2,624名)



サマーイベント
「サマースブラッシュ」

9/1 ~ 10/1	サマースブラッシュアンコール
9/13、15	鴨川シーワールド「敬老の日」 ・千葉県在住の60歳以上入館無料(3,517名)
10/1	鴨川シーワールド開業記念日 ・特別入館料金 ・勝保館長によるレクチャー「鴨川シーワールドのあゆみ」(参加者100名)

レクチャー

5/7	令和7年うみがめに係わる研修会「アカウミガメの産卵と保護」 主催: 千葉海区漁業調整委員会 講師: 吉村課長(参加者41名)
-----	---



うみがめに係る研修会

5/10 ~ 10/11	動物レクチャー 「シャチとの歩み」、「ウミガメが生まれた」他(計10回、参加者688名)
10/4 ~ 26	開業記念特別レクチャー「ペルーガが生まれた〜子供たちの成長、 「謎多き深海の生き物たち」他(計8回、参加者390名)



開業記念
特別レクチャー
「謎多き深海の
生き物たち」

研究発表

10/2、3	2025年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同技術者研究会 「鴨川シーワールドにおけるハブクラゲの飼育」 発表者: 高倉社員
--------	---

その他

5/10、11	鯨類スクール(計2回、参加者76名)
5/17 ~ 6/2	水族館満喫体験(計6回、参加者47名)
5/18 ~ 6/1	水族館満喫宿泊プラン(計3回、参加者30名)
6/7 ~ 7/6	大人の学習休暇プラン(計8回、参加者283名)
7/28	エコキッズ探検隊2025「ウミガメ移動教室」 主催: エコキッズ探検隊運営事業部 講師: 吉村課長(参加者20名)
9/27 ~ 10/25	シャチプレミアムプラン(計5回、参加者209名)
9/28 ~ 10/19	シャチプレミアム宿泊プラン(計5回、参加者205名)
10/19	コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーンin市原 主催: Tokyo fm 講師: 吉村課長(参加者42名)

●本紙の一部または全部を許可なく転載、複製することは著作権法で禁止されています。

表紙写真: きれいになったサーフスタジアム